

(被災地の中学校・高等学校段階の生徒向け)

新学期を迎える皆さんへ

皆さん、入学、進級おめでとうございます。

本当にたいへんな一年をのりこえ、こうして皆さんが、また学校に来てくれていることを、文部科学大臣として、まず、なによりも感謝したいと思います。

本当にありがとう。

あの東日本大震災から、一年がたちました。

皆さんの中には、まだ仮設住宅などで不自由な生活をしている方たちがたくさんいらっしゃると思います。校舎が壊れ、まだきちんとした教室で授業を受けられない学校もあります。

それでも春は来て、皆さんは新しい年を迎えます。

この時の流れを、無情とを感じるか、時が様々なことを癒やしてくれるとを感じるか、皆さんもいろいろな思いを胸に、入学式、始業式に臨んだのではないのでしょうか。

どうか、この新しい一年が、被災地に希望の光が見える一年となることを祈ります。

私たちも、皆さんが一日でも早く、普通の学校生活を取り戻せるように努力をしていきます。

皆さんは、この一年、自分自身が苦しい環境にあるにもかかわらず、避難所で、仮設住宅で、お年寄りや身体の不自由な人を助けたり、大人に代わって、あるいは大人以上の活躍をしたりしていただきました。私は、そんな皆さんのことを、本当に誇りに思います。

皆さんの、その若い純真な力が、郷土を愛する気持ちが、地域の復興と、日本の再生の原動力となると信じています。

皆さんは、十代の最も人間が成長する時期に、人生観を揺さぶるような大きな体験をすることになってしまいました。

この一年、皆さんは、自然の猛威、命の大切さ、人と人とのつながりなど、様々なことを学び考えてきたと思います。

この大震災を通じて、日本国と日本社会も、大きな変化を余儀なくされています。「戦後」に変わる、「災後」という言葉も使われるようになりました。

大量生産大量消費を前提とし、経済効率を優先した社会、あるいは物質至上主義から、どうやってこの国のかたちを変えていくのか。自然と共生して生きてきたはずの日本社会が、その本来の姿を取り戻すためには何が必要なのか。

今回の東日本大震災では、地震、津波のほかに、原子力発電所のあつてはならない事故が起こり、国民の皆さまに、いまも、たいへんなご迷惑をおかけしています。皆さんの中にも、故郷が避難区域に指定され、戻れない生徒さんたちがたくさんいます。

科学技術は、本来、私たちが豊かにし、幸せにするものです。

どうか皆さんは、もっともっと勉強をして、どうすれば科学技術が人々の幸福に役立つかを考え、行動できる人間に育ってください。

皆さんに求められる一番重要な能力は、自ら学び、自ら考える力です。

どうか、とことん考えてください。日本国と日本社会の未来について、自ら考え、そして行動する力をこの一年で蓄えてください。

学校は、単なる知識や情報を得る場所ではありません。仲間と共に学び、共に考える。学校はそのような場所だと思います。

平成22年4月からは、高校教育の実質無償化（※）という新しい制度が始まりました。これは、高校教育を社会全体で支えていこうという考え方に基づく新しい政策です。高校生の皆さんは、社会全体に支えられ、育てられています。また成長したのちは、その能力を社会に還元することが期待されています。その期待と信頼を裏切らない大人となるための勉強を続けてください。

今回の震災では、諸外国からもたくさんの支援や励ましが届きました。

日本は決して、孤立した国ではありません。これからの日本人は、日本人である誇

りを持つと同時に、地球市民としての自覚も持たなければなりません。

皆さんが成長した際には、世界中の人びとに、今回の震災に対する支援へのお礼をきちんと述べることのできる能力が必要になります。また、他国でも同じような災害があったら、国籍や民族に関係なく、手を差し伸べることのできる人間になってください。

被災地の将来、日本の未来は、皆さんの双肩にかかっています。

地域の復興、日本の再生のために、共に進んでいきましょう。

文部科学大臣 平野 博文

※「高校教育の実質無償化」について

公立高等学校では、授業料は徴収されません。また、私立高等学校等の生徒には、授業料の一部に充てるため、公立高等学校と同等の支援を行う高等学校等就学支援金制度が実施されています。